

閉会挨拶（第3回 高齢者とビジネスと法 Onlineフォーラム）

著者	池田 眞朗
雑誌名	武蔵野法学
号	15
ページ	108-107
発行年	2021-09-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001591/

5. 閉会挨拶

池 田 眞 朗

それでは、残念ながら時間がまいりましたので、閉会のごあいさつを申し上げます。本当は、これは3時間番組で最初から組んでおくと良かったかもしれませんね。本日は皆さんのご報告を伺って、ビジネス法という観点からすると、もう課題、テーマ、アイデアの宝庫という感じがいたしました。時間が過ぎておりますので、私としてはキーワードだけ並べておきましょう。本日のテーマは、ビジネス法務からいうと、まずビジネスモデルにおける哲学、理念、こういうものが他の分野より必要です。それから、個と社会、この分析比較が重要です。それから、最初に樋口先生から fiduciary duty のお話がありましたが、そこから私のほうで一般化すると、企業の ESG の問題、それから SDGs の問題、パートナーシップ、サステナビリティ、こういう観点が出てまいります。

それで、そこからのつながりで申し上げますと、自治体がやはり重要になるかと思います。産官学連携という、その官がこの問題の場合には地方自治体、今日はもっと自治体の方にたくさん来ていただけると良かったと思うのですけれども。今後は、そういうところも意識して私どももやっていけたらと思っています。それから、最後の東浦さんのところで、私が出てくるかなと思っていたキーワードが、ウェルビーイングです。ハピネスではなくてウェルビーイングが今、注目されているところなので、そこでモビリティ、移動の自由などというのも大きな問題になってきている。それから、私ども法律学者の観点からいうと、法律が何ができるかというときに、法律って今まで規制法が圧倒的に多いのです。そうではなくて、これからの時代は促進法です。規制法から促進法へというのは、私が金融法の世界でも主張しているところであるわけです。

そういういろいろな、今、キーワードだけ並べさせていただきましたけれども、今日は本当に、くり返しになりますが、課題、テーマ、アイデアの宝庫と思いました。本日ご参加の皆様方、最初に私からご挨拶で申し上げたように、お一人おひとりがご自分にとっての何かわくわくするようなキーワードになる、キーポイントになるものを見つけていただいてお帰りいただければ大変うれしく思います。私からも今回のフォーラムをまとめて立ち上げてくださった樋口先生にまずお礼を申し上げ、それから 4 人の個別報告者の皆さま方、素晴らしいご報告をありがとうございました。お礼申し上げます。そして、最後までほとんどの方が残って聴いてくださり、私共も含め 86 人のフォーラムになりました。最後まで多数の方が参加してくださいましたので、その皆様方にも心からのお礼を申し上げて、結びのご挨拶としたいと思います。本日は本当にありがとうございました。